

福島県PTA連合会会報
第101号_H28. 12. 12

福島県PTA連合会



PTA ふくしま 第 101 号

県連P活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA 活動を

編集：調査広報委員会 印刷：泉印刷所

特集

平成28年度 福島・水俣交流事業 ～子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業～

水俣と福島の交流事業が始まって四年目となりました。震災の翌年に、水俣市連合PTAの中村会長様に出会ったのが、つい先日のように思い出されます。福島県は放射線の脅威と隣り合わせで、汚染を懸念しながらも、ひとりひとり前を向きながら生活しています。そんな時、

子どもたちの明るい笑顔と元気な姿が、何より私たちの元気の源です。大人が変わっていかば子どもたちも変わります。そうならば明日（未来）が変わります。福島の子どもたちと水俣の子どもたちの共通点は、明るい未来に向かって全力疾走している

ところです。この三泊四日で子どもたちは素晴らしく成長しました。初日は、初めて会った皆さん、緊張で顔がこわばっていましたが、しかし時間が経つにつれて、その表情が笑顔に変わり、二日目には友人に変わりました。目には家族に変わりました。子どもたちは宝物です。私たち大人も子どもたちの笑顔に感謝しながら今後も福島・水俣に一生懸命関わっていききたいと思っています。両県の復興、そして子どもたちの未来を応援していきます。



未来に向かって

実行委員長 鈴木辰也

●実行委員長あいさつ

事前学習会 7月3日(日) 県青少年会館 福島メンバーが県内各地から集合！



水俣の皆さんに向けて、歓迎のビデオレター作成

7月28日(木) ～福島・水俣交流1日目～

開講式・名刺交換・レセプション・グループでの熟議等

流学習会

福島県 PTA 連合会・水俣市 PTA 連絡協議会



熊本県 PTA 会長様ご挨拶



参加者の名刺交換の様子

歓迎レセプションに
キビタンも
来てくれました



班のメンバーで熟議



もくじ

特集 平成28年度 福島・水俣交流事業

実行委員長あいさつ・交流1日目	P 1
交流2日目	P 2
交流3日目・活動報告	P 3
大会レポート・表彰	P 4
第22回母親代表懇談会	P 5
事務局からのお知らせ	P 6

～子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業～

7月30日(土) ～3日目～

- モニタリング検査についての説明
- モニタリングセンター視察
- 果樹園での桃狩り・果樹農家の方のお話
- 熟議3・4



桃狩り体験と果樹農家の方からのお話

モニタリング
検査の説明



モニタリング
センターの視察



四季の里での
楽しい昼食

熟議の様子



7月29日(金) ～2日目～

- 富岡第一・第二中学校の視察（三春）
- 環境創造センターにて放射線と環境学習
- 三春の滝桜見学（水俣に植樹した親木）
- 講義：消費者庁担当者・水俣環境教育担当者
- 熟議1・2



三春の滝桜で記念写真



新しく出来たばかりの
県環境創造センターで、
放射線の学習

曙ブレーキ工場跡地で
開校している富岡第一、
第二中学校を見学。校
長先生から震災後の話
を聞きました。



常葉中学校の合唱部が
感動的な歌声を披露



水俣一小的先生方による
水俣についての学習



熟議の様子

特集

平成28年度 福島・水俣交流事業

福島・水俣
交流事業の活動報告

福島市立福島第四中学校 渡 邊 匠

私が四日間の活動で経験したこと
は何物にも代えがたいものでした。
特に熟議において私が取り組んだ
「食の安全」という問題では、「知識
としての風評被害」であったもの
が、それに対する人々の思いや取り
組みなどに触れることで「当事者
としての風評被害」という認識に変化
しました。

二日目で受けた食品リスクについ
ての講義では、報道などによる風評
よりも、漫画などの描写の影響で購
入をためらう人の割合が大きく変動
しているという結果に驚きました。
これほどまでに風評被害を福島が受
けているというのは「消費者が正し
い知識を持っていないからである。」
とその日の熟議では考えました。そ
して正しい知識を持つてもらうため

には興味を持つてもらわなくてはな
らないという考えに至りました。
三日目はそれぞれの調べるべきこ
とを中心に進めていきました。モニ
タリング検査では正しい情報を得る
ために高価な機材を四十台以上も使
用していること、県を挙げて米の
全袋検査を実施していることがわか
りました。またその後の農家の方の
お話では木を高圧洗浄することや、
土を入れ替える等の除染活動によつ
て農地が安全になったということ
を聞き、ますます消費者に興味を持
てほしいという思いに駆られました。

熟議では班のテーマを具体的に調
べていきましたが、様々な人々の助
言によって辿り着いたのは福島・水
俣は復旧ではなく復興を目指してい

るということです。
風評被害を少しでも無くすために
基準を厳しくし、他県よりも食の安
全を証明できているのは、正に事故
を教訓に安全を追求しているからで
あり、そこそが事故のあった地点
に戻す復旧ではなく、更に未来へと
一歩踏み出す復興なのだと思います。

また熟議の最後には、消費者を含
めたすべての人々に関心と興味を
持つてもらうための標語を作りました。
その後今回の経験を伝えるため
のアクションプランと呼ばれる活動
方針をまとめました。私は学んだこ
とについて新聞にまとめた다고考
えています。

私は今回、この事業を通じて風評
被害を払しょくする活動に、極めて

微力ながら参加できたことに感謝し
たいと思っています。
また、熟議を通して一つの方向へ
と進んでいった班の仲間と、全員を
まとめて班を更なる高みに導いてく
れた班長、風評被害について説明し
てくださった方々に私は深く感謝す
るとともに、私に新しい視点と広い
視野をさずけてくれたこの経験を多
くの皆さんに広く知らせる責任があ
ると感じています。

このことを広く知らせることによ
り、私一世代で絶やさず、二世代三
世代とつなげていきたいと思いま
す。

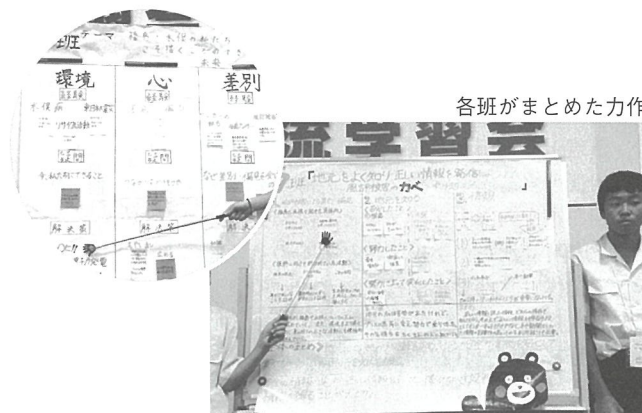
そして水俣のように未来へと続く
取り組みに発展させていきたいと思
います。

7月31日(金) ～4日目～

●発表会 ●閉校式 ●見送り



発表会で各班の熟議の成果を発表



各班がまとめた力作

閉校式でそれぞれの中学生代表があいさつをかわしました。

福島駅西口での
見送り風景

晴れの表彰おめでとうございます

平成28年度

文部科学大臣、日P
東北P・県P会長
表彰受賞団体・個人一覧

1 文部科学大臣表彰「優良 PTA」表彰

喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会
いわき市立草野小学校父母と先生の会
南相馬市立石神第二小学校父母と教師の会

2 日本 PTA 全国協議会長表彰

◇団体

大熊町立大熊中学校 PTA
いわき市立田人小・中学校父母と教師の会

◇個人

諏訪 秀一 (H26~27副会長)
梅津 司 (H27副会長)

3 東北 PTA 連絡協議会長表彰

◇感謝状

前会長 村上 和行 (H26~27会長)

◇団体表彰

伊達市立梁川小学校 PTA
川俣町立富田小学校父母と教師の会
相馬市立向陽中学校父母と教師の会
三春町立沢石小学校父母と教師の会
猪苗代町立吾妻小学校父母と教師の会

◇個人表彰

菅野 善昌 (H27副会長、校長会代表)
佐久間裕晴 (H27副会長、校長会代表)
横田 純子 (H26~27、母親代表・会津)
丸田 和弘 (H27理事、監事・相馬地方)
出川 正人 (H27理事、HP懇談会代表・安達地方)
渡部 誠 (H27理事、監事・北会津)
須田 尊 (H26・27会計部長)

4 福島県 PTA 連合会会長表彰

感謝状

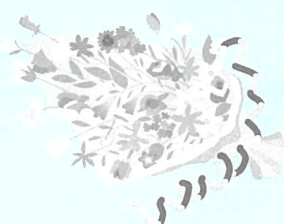
村上 和行 (前福島県 PTA 連合会会長)
他35名

団体表彰

川俣町立富田小学校父母と教師の会
他30団体

個人表彰

舟山 朋美 (福島) 他81名



大会レポート

日本 P T A 研究大会徳島大会 8 / 20(土)・21(日)

県 P T A 連合会副会長 安 藤 敦



平成二十八年八月二十日から二十一日において第六十四回日本 P T A 全国研究大会が徳島にて開催されました。福島県は、福島県 P T A 連合会小林会長を含め総勢二十六名で参加しました。初日の二十日には鳴門市文化会館にて行われた特別第一分科会に参加し、女優で小学五年生の男児の母でもある水野真紀氏の基調講演において、コミュニケーションの大切さや、テレビ等への出演による中で感じたことなどを聞き、大変共感いたしました。また、水野真紀氏と計盛有希江氏による対談も行われました。計盛氏は、元四国放送ラジオキャスターとして活躍され、結婚後は家庭の手伝いと子育てに専念し、現在は小学三年生と小学五年生の二児の母であります。お子さんが通園した私

立幼稚園の P T A 会長を務められ、小学校におかれましても P T A 活動に積極的に参加されております。この二人の対談においては、P T A の役員は比較的皆さんに引き受けてもらえるが、そのトップはなかなか厳しいので、水野氏は最後のネタにでも、という思いで委員長を引き受けたことや、笑っていたほうが相手との話すチャンスやコミュニケーションのチャンスがあることなど楽しい対談をお聞きすることができました。また、親子の前で先生の悪口を言うべきではないこと、子どもには自立できる人間、コミュニケーションのとれる人間になって欲しいという母親の本音などもあり、親として考えさせられる一幕もありました。

翌日の日曜日は朝から全体会が開催されました。会場のアステイ徳島において日本 P T A 四国ブロック研究大会から始まり、記念講演では、漫画家二〇一五年二月より文部科学省

第八期中央教育審議会委員に就任された竹宮恵子氏が、「輝く未来を拓くために大切なこと」子どもたち、そして私たちが自立するためにとの演題で大変、為になるお話をされました。竹宮氏は漫画をお話の育成にとどまらず、子どもたちのこれからのためにも力を注いでおられる方であります。

この二日間は、今、自分のおかれた立場を再認識し、そしてこれからの取り組みに対して多くの課題を見つけた研究大会でありました。また、全国の小中学校 P T A の役員代表が集う、このような盛大かつ有意義な研究大会に参加し、貴重な講演や参加された方々のお話を聞くことができたこと、大変光栄に思っております。そして、この経験を今後の活動に少しでも活かし、P T A 活動に貢献したいと思っております。

東北 P T A 研究大会弘前大会 9 / 10(土)・11(日)

県 P T A 連合会副会長 菅 田 憲 孝



第四十八回日本 P T A 東北ブロック研究大会が九月十日(土)・十一日(日)に弘前市において開催されました。初日は東北各地の P T A 会員ら約千八百人が集まり、地域社会と子どもの関わりやいじめ問題などをテーマに六つの分科会で意見交換しました。本県からは二名がパネリストとして参加し、様々な経験に基づいた発表をいたしました。二日目は元自転車プロロード

レーサーの宮澤崇史氏による記念講演がおこなわれました。「誰にもこれだけは負けない、一つのことを磨き続けること」が大きな武器になること。進学校でたいした成績ではなかったけれど、母親は自分が得意なことを褒めてくれて、ずっと支え続けてくれたこと。

また、大人から見たら危ういようなことでも、「子どもが夢中になっていることを否定しないで欲しい」と自分を信じて支えてくれた母親についての話もあり、親としての支援の在り方についても考えさせられました。

現地での夜は、小林会長を中心とした懇親会も大いに盛り上がり、多くの学びや気づきを得るとともに親睦を深めることもできた素晴らしい大会となりました。

ちょっと立ち止まって 今を 考えてみませんか？



第22回母親代表懇談会レポート

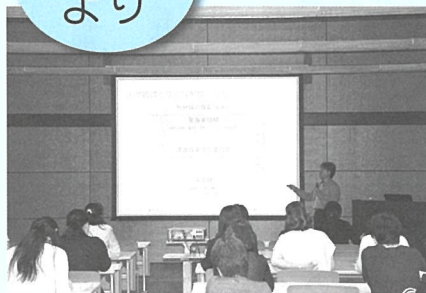
県 PTA 連合会 母親代表 佐藤 明子

今年度は、全県から集まりやすい郡山市を会場に、県内各地区の小中学校のリーダーとして活動している母親役員が参加し、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故から5年経過した現在も残る風評被害や食の安全問題について講話をいただき、どう向き合うべきかを考えました。

講話 より

『食と放射能に関する説明会』

講師 消費者庁消費者安全課 大瀬 健嗣 様



放射線とはなにか？その特性を基礎から学び、正しい知識を身につけた上で、生産の現場から私たちの食卓に届くまでの食材の安全に関する取り組みを知り、よく理解することが大事。私たち、一人一人が正確な情報の発信源となれるよう学びを深めよう。

《大瀬健嗣先生からアドバイス》

安心と安全は、もともと別物。
地域や家庭のなかで意見の分断は禁物です。
相手に考えを強要せず、
丁寧に正しい情報を届けていきましょう。

参加者の 声

～講話の感想～

- * 専門家の話なので、理解できるか不安だったが、今まで聞いてきた話より、分かりやすい説明だった。
- * 目に見えないものに不安を抱える人にとって伝えたらよいかわかる。
- * 放射能について、住む地域によって関心の差があると感じる。
- * 消費者である自分達からも、食30品の安全をアピールすれば、風評被害が減ると思う。
- * 三春に新設の『環境創造センター』で、子どもと一緒に大人も放射線の正しい知識を学びたい。



震災・原発事故後の各学校の取り組みや PTA の活動の現状を情報交換をするなかで、それぞれの地域が抱える悩み（避難によるコミュニティ維持の難しさ、少子化による児童・生徒数の減少問題）が見えてきました。子ども達と地域をつなぐ為に、いま自分達にできることはなにか？今後の PTA 活動の方向を考えるよい機会となりました。



安全互助会から

◎二十九年度はⅣコースに加入を!

人身事故などの高額な賠償責任を負う事態に至るようなケースに対応するため、Ⅳコースでは学童の賠償責任額を一億円(自己負担額〇円)としています。

今年度はⅣコースに県内加入小中学校の約七〇%(四百四十九校)の校・園に加入いただきました。

自転車事故に限らず、人身事故が増えてきております。万が一のために是非Ⅳコースへの加入を検討ください。

(参考例)

当時Ⅲコースに加入していた学校の学童が、下校途中自転車による人身事故を起こしてしまい、被害者から補償限度額を上回る賠償請求があり不足分を親権者が負担せざるを得ないという事例がありました。

◎転出入の報告をその都度お願いします。

今年度も、児童生徒の転出入の件数が多くなっています。

年度末に、本会と引受保険会社とで加入人数等の確認をし、本会が支払う保険金の調整をすることになるので、転出入の人数の確認が必要となります。つきましては、お手数でも、「変更届」の提出を忘れずにお願いいたします。

なお、第三学期(二月)以降の転出入については報告の必要はありません。

※「変更届」の用紙は、「事務取扱概要」の四十一頁にありますので、コピーしてご使用ください。

(お願い)

「傷害事故報告書」の用紙について本年度は一部改訂しています。前年度までの報告書は使用しないでください。

年末年始の事故防止を

「いんばんは

早めのライトでいあいさつ」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されます。

●期間

平成二十八年十二月十日から平成二十九年一月七日まで

●運動の基本

高齢者の交通事故防止

●運動の重点

(一) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、反射材用品等の着用の推進)

(二) 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

(三) 飲酒運転の根絶

編集後記

今年度の「水俣との交流事業」は、七月二十八日(三十一日までの三泊四日)で実施しました。県内各郡市P連から推薦された四十八名の中学生と水俣市の二十四名の中学生が、県青少年会館にて寝食をともにし、交流・体験活動を行いました。今年度は、三春町に新設された「環境創造センター」、仮設校舎で開校している富岡町立小・中学校訪問、果樹農家の方との懇談といった活動が盛り込まれ、参加した中学生にとつて密度の濃い四日間を過ごすことができました。未来を担う子どもたちにとって、「ふるさと」「ふくしま」を見つめ直し、どう生きていくのか、自分の住んでいる地域をどうしていくかを考える貴重な体験となりました。

なお、県PTAではこの「水俣との交流事業」の周知を図るため、今年度の事業内容を記録したDVDを作成いたしました。各郡市P連の会議・大会等でDVDを放映して頂き、紹介していただければ幸いです。よろしくお願いたします。(使用する場合は、県P事務局までご連絡ください。)(H・S)

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認ください。多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成29年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

◇PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成29年4月14日消印有効
- ・送付先 福島民友新聞社事業局
[県小中学校・PTA広報紙コンクール係]

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言! 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。